

# F P まつもと通信

ちょっと得する「資産形成」や「お金」の話題をお届けします。

## ご挨拶

豪雨や台風による水害が気になる季節になりました。

台風の季節を前に、家族で「マイタイムライン」を作ってはいかがですか？

「マイタイムライン」とは災害が近づいているときに何をすべきかを時系列に整理した避難計画書のことです。事前に避難計画を作ることによって慌てずに避難することができます。「マイタイムライン ●●市」などと検索すれば作り方を知ることができます。

風水害は準備ができる災害です。少しでも被害が小さくすむようしっかりと準備しておきましょう。



## 今月号のちょっと気になるお金のコラム

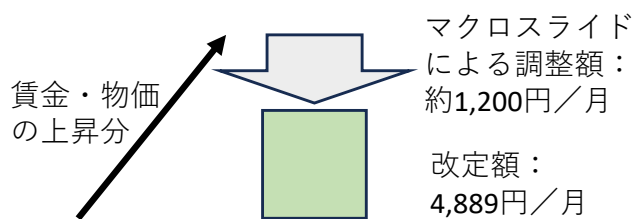
消費者トラブルにあったことはありますか？年間の消費者トラブル額は日本の防衛予算と同程度の約6.5兆円もあるそうです。

## 今年度の厚生年金、月4,889円増額

2023年度の公的年金の支給が先月から始まりしました（年金は年6回、2か月分が偶数月に支給されます）。

支給額は毎年、物価変動率や賃金変動率などに基づいて改定されます。今年度は物価高と賃金上昇を受け、68歳以上1.9%、67歳以下2.2%の上昇、厚生年金の67歳以下モデル世帯では4,889円増の月額224,482円に、国民年金の加入者は1,434円増の月額66,250円となりました（40年間保険料を納付していた場合）。

その一方で「マクロスライド」が発動されました。「マクロスライド」は現役世代の負担が重くなりすぎないように厚生年金の保険料を18.3%に固定し、その範囲内で支給額を決めることで年金額の伸びを抑えるための仕組みです。今年度の改定では金額にすると月額約1,200円の調整になりました。



マクロスライドは将来にわたり年金制度を維持するためには有効な仕組みですが受給者にとっては物価高の時には目減りしてしまいます。このような仕組みも考慮して老後準備をしておく必要がありそうですね。



F P 松本相談センター  
ファイナンシャルアドバイザー  
媚山裕之

〒390-1702

長野県松本市梓川梓856-26

0263-76-1250

090-8741-7358

[info@fp-matsumoto.com](mailto:info@fp-matsumoto.com)

<https://fp-matsumoto.com>



2012年から2015年までの3年間、社会保険労務士として「年金事務所における年金相談業務」に従事。そこで、数多くの“悲惨な老後の実態”を目の当たりにし、老後に向けた資産形成の必要性を痛感。

国も勤める、“確定拠出年金”や“つみたてNISA”を活用した「長期・分散・つみたて投資」を真面目に、地道に推進。クイズやゲームを活用した『つみたて投資セミナー』は「わかりやすく、ためになる！」と多くの受講者からご支持をいただいております。

# 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

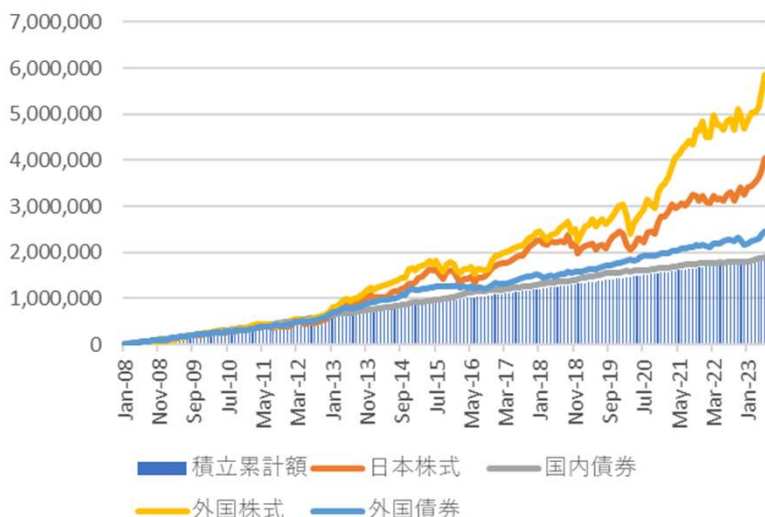
下図表は2008年1月から積立投資をした場合のシミュレーションです（MS社インデックスファンド基準価額データを利用）。図①は国内外の株式・債券の種類ごとの積立投資の推移を表しています。図②は外国株式ファンドと外国債券ファンドに積立投資をした場合の積立開始時期による成果の違いを表しています。この2つのグラフを見ると、確定拠出年金のような長期の積立投資で成果を得るためには以下のポイントが大切であることがわかります。

**投資期間に応じた資産配分：**積立期間が長い場合には株式の割合を多く、まとまった資金の受取予定が近い場合には株式の割合を少なくする

**大幅に値下がりした場合：**積立期間が十分にある場合は、株式への資産配分の増額、掛金の増額を検討する

**長期継続する：**値動きや値動きを解説するニュースに惑わされず長期継続する

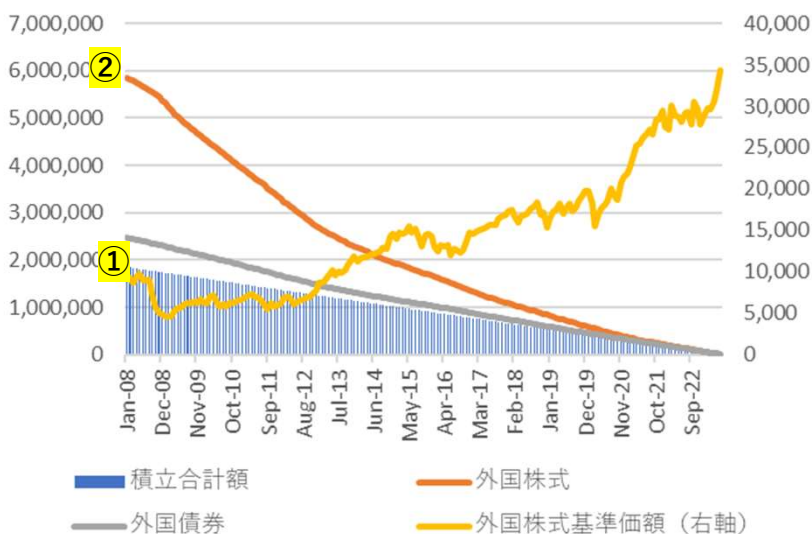
① アセットクラスごとの積立投資の推移



	Apr-23	May-23	Jun-23
積立累計額	1,840,000	1,850,000	1,860,000
日本株式	3,622,084	3,761,872	4,054,466
国内債券	1,873,728	1,881,271	1,895,388
外国株式	5,172,302	5,421,599	5,855,268
外国債券	2,298,596	2,366,853	2,470,083

2008年1月からの積立投資の推移です。株式は値動きは大きい一方値上がりも期待できません。債券は値動きは小さく値上がりも小さいことがわかります。従って長期の積立では株式をメインに、まとめて取崩す予定がある場合は株式の割合を少なくします。

② 積立開始時期ごとの積立合計と評価額



2008年1月に始めた積立投資の合計額①186万円（青棒）は2023年5月に②585万円（オレンジ線）3.14倍になりました。グラフの左の方は積立合計（青棒）に対して現在の評価額（オレンジ線）が大きく上の方に離れているのに対しグラフの右の方はその差が小さくなっています。つまり投資の成果は概ね積立期間に連動していると考えられます。

外国株式に10年（120万円）積立をした場合の最大値、最小値、平均値は下表のようになりました。

最大	2,640,931	2012年1月 ~ 2021年12月
最小	1,747,373	2010年4月 ~ 2020年3月
平均	2,269,723	データ数：66

# 確定拠出年金加入者のための資産運用ガイド

## 日米とも株式市場は大きく上昇

	日経平均		NYダウ		ドル円
Apr-23	28,856.44	2.91%	34,098.16	2.48%	136.92
May-23	30,887.88	7.04%	32,908.27	-3.49%	139.34
Jun-23	33,189.04	7.45%	34,407.60	4.56%	144.27

今年も半年が過ぎました。インフレ加速、シリコンバレー銀行の破綻、米国の財政不安、景気後退懸念などのニュースが流れましたが株式市場は皮肉にも堅調でした。

「強気相場は、悲観のなかに生まれ、懐疑のなかで育ち、楽観のなかで成熟し、幸福のなかで消えていく」

これはアメリカの著名投資家ジョン・テンブルトンの言葉です。ここ数か月のニュース、専門家の解説、そして私たちの気持ちを振り返ると当てはまると感じるところもあるのではないのでしょうか？

長期の積立投資では短期的なマーケットの動きや感情に惑わされずに継続することが大切です。

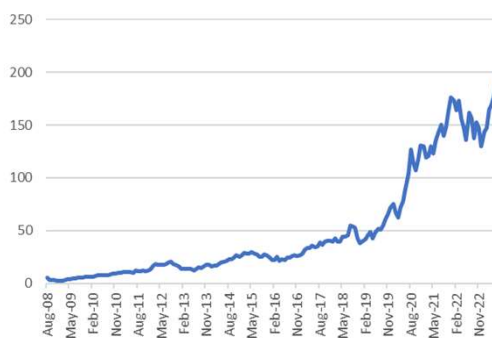
## アップル時価総額3兆ドル突破が教えてくれること

6月30日のNY株式市場でアップルの株式時価総額が世界の上場企業で初めて3兆ドル（約432兆円/1ドル＝144円換算）を突破しました。時価総額とは発行済株数に株価をかけたもの、全株式を取得するのに必要な金額です。

下表は6月30日現在の日本企業の時価総額トップ5です。いかにアップルが巨大かわかりますね。

1	トヨタ自動車	37.6 兆円
2	キーエンス	16.5 兆円
3	ソニーグループ	16.3 兆円
4	日本電信電話	15.4 兆円
5	三菱UFJフィナンシャル・グループ	13.5 兆円

下図は2008年8月から2023年6月までにアップルの株価推移です。この間、リーマンショック、ギリシャショック、イギリスEU離脱、コロナショック、50年ぶりのインフレ、ウクライナ戦争などがありました。企業活動を継続し利益を積み上げてきたことが株価に反映しているものです。



このことは私たち長期積立の投資家に2つのことを教えてくれます。

一つはアップルに限らず世界の上場企業は企業活動を継続し、それが利益に結びついて株価に反映されるということです。短期的には上がったたり下がったり日々激しく値動きをしていますが、長期的な株価は企業の成長を反映します。長期投資で成果を得るためには日々のマーケットの動きやそれを解説するニュースに惑わされずに継続することが大切だということがわかります。

もう一つは投資信託を上手に使うということです。次のアップルを上手に探すことができればよいですが本当に上手にそれができるのか不安に感じる人も多いと思います。さらに長期にわたりチェックを継続することはより難しいですね。

投資信託は私たちの代わりに専門家が投資先の企業を選びチェックを継続してくれる商品です。一人一人の投資金額が仮に少額だったとしてもみんなの資金が集まり大きな単位になれば分散投資も可能になります。

投資信託を上手に使い長く続けることが長期の積立投資で成果を得るための鍵になりそうですね。

# ちょっと気になるお金のコラム

## 消費者トラブル推計合計額は6.5兆円

下表は2022年の消費者被害・トラブル推計額です（令和5年版消費者白書より）。

	契約購入金額	既支払額 (信用供与含む)	既支払額
2018年	約7.2兆円	約6.1兆円	約6.0兆円
2019年	約6.6兆円	約5.1兆円	約4.9兆円
2020年	約5.0兆円	約3.8兆円	約3.6兆円
2021年	約7.3兆円	約5.9兆円	約5.8兆円
2022年	約8.4兆円	約6.5兆円	約6.4兆円

2022年の被害・トラブル推計額は6.5兆円（すでに支払った金額にクレジットカードなどの将来の支払いを加えたもの）でした。

毎年これだけの金額の消費者被害・トラブルがあるのは少し驚きですね。

## 1件当たりの平均購入額は79万円

1件当たりの金額を見ると購入額は79万円、既支払額は37万円とこちらも1回の消費金額としてはかなり大きいと感じるのではないのでしょうか？

下表は65歳以上と20歳代未満の人の上位の相談内容です。

65歳以上	相談数
相談総件数	258,422
商品一般	29,234
工事・建築	12,453
基礎化粧品	8,381
他の健康食品	7,893

20歳未満	相談数
相談総件数	21,827
インターネットゲーム	4,466
他の化粧品	1,714
エステティックサービス	1,382
他の健康食品	1,325

20歳代	相談数
相談総件数	85,267
エステティックサービス	12,501
不動産賃貸	6,202
他の内職・副業	4,101
商品一般	4,071

世代を映した相談内容だと感じるのではないのでしょうか？

高齢の方で注意したいのは「工事・建築」です。シロアリやリフォームなどは通年で起こっていますが、特にこれからの季節は水害に関連したリフォームトラブルが多くなる傾向があります。

20歳代未満は「美容」、「お金」がキーワードですね。これらについては金額も大きくなる傾向があるので一層注意が必要です。

トラブルにあった場合に相談・申出をしている人は半分にも見たくない43.7%です。相談相手は「家族・知人などの身近な人」が42.7%でした。

家族が相談しやすい環境を作っておくことも大切なのではないのでしょうか？